

# 【小学校・6年・社会・「わたしたちの暮らしを支える政治」】

## 育成を目指す資質・能力

B1（個に応じる学習）

C2（協働での意見整理）

政策の内容や計画から実施までの過程等に着眼して、資料を比較したり関連付けたりすることを通して、日本や地域の活性化のために社会への関わり方を選択・判断している。

## ICT活用のポイント 【活用したソフトや機能】 学習支援ソフト プレゼンテーションソフト

- ・学習支援ソフトを活用して、共同編集によりグループで考えを整理したりまとめたりすることができる。
- ・振り返りシート（プレゼンテーションソフト）によって学びを振り返ったり、積み上げたりすることができる。

### 学習（単元）の流れ

**つかむ** 国や地方の課題を把握し、それを基に学習問題をつくる。

**調べる** 政策を実現するまでの過程、法令や予算との関わりを調べる。

**まとめる** 調べたことを基にして、国や地方公共団体の政治の動きをまとめる。

**考える** これまでの学習を基にして、よりよい地方創生について考える。

**まとめる** 単元の学習を振り返り、政治への関わり方について考えをまとめる。

### 事例の概要

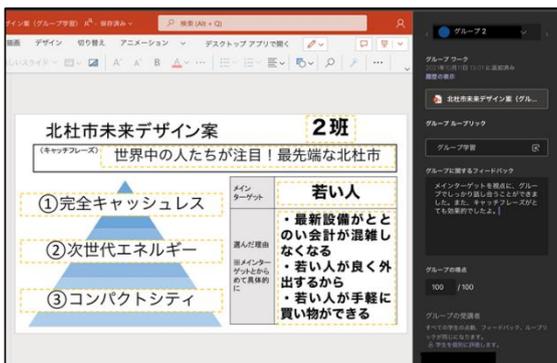
< 学習支援ソフトについて >  
 本事例では、グループや個人が活用できる学習シート（プレゼンテーションソフト）の活用を通して、学習改善や指導改善を図ることを目指した。グループや個人から提出された課題に対しては、「フィードバック」機能や「ループリック」機能により、コメントや学習状況の評価を行った。

< プレゼンテーションソフトについて >  
 2つの方法でプレゼンテーションソフトを活用した。  
 ①児童が、共同編集によりグループごとに意見を整理し、まとめた考えを電子黒板に映して発表するようにした。  
 ②各時間の学びがつながるよう、児童が振り返りシート（プレゼンテーションソフト）に学習問題等に対する予想やまとめ、学習感想を書き、自分の学びを振り返ることができるようにした。

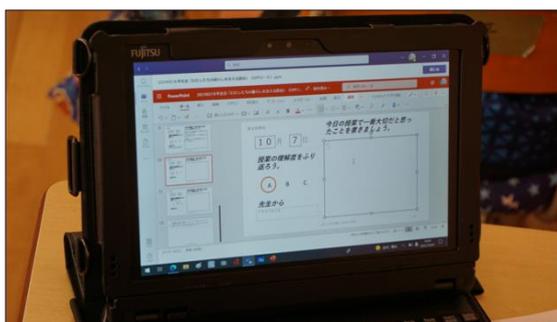
※ ICTの効率的な活用のためには、児童がタイピング技術等を身に付けられるよう、計画的に練習の機会を設けることが大切である。

# 【小学校・6年・社会・「わたしたちの暮らしを支える政治」】

## 【事例におけるICT活用の場面①】 ～共同編集で考えをまとめる～



## 【事例におけるICT活用の場面②】 ～振り返りシートで学びを積み上げる～



## ICT活用のポイント

- 共同編集による学習シートの活用（活用場面①）
  - プレゼンテーションソフトで学習シートを予め作成する。
  - 学習支援ソフトの「課題」機能で各グループに配付する。
  - グループでの話し合いを基に、共同編集で考えをシートにまとめる。（児童が入力する箇所には色をつけ、一目で分かるようにする。）
  - 授業後、各グループが作成したシートに対して、教師が「フィードバック」機能や「ループリック」機能を活用してコメントや評価をする。
- 振り返りシートの活用（活用場面②）
  - プレゼンテーションソフトで振り返りシートを作成する。
  - 授業後、各自のシートを学習支援ソフトを活用して回収する。単元終了後には「フィードバック」機能や「ループリック」機能を活用して、単元の学習全体に対するコメントや評価をする。（各自のシートは単元終了後、印刷して配付する。）

### < ICT活用のメリット >

- ・グループの考えをまとめる活動を効率的に行うことができる。
- ・定型の振り返りシートを活用することで、学習のまとめや振り返り、提出等をスムーズに行うことができる。
- ・児童が提出した学習シートや振り返りシートを評価資料としても活用することができる。

## 小学校6年・社会 「わたしたちの暮らしを支える政治」

使用機器：PC、プロジェクター 使用アプリ：学習支援ソフト・プレゼンテーションソフト

### 〈ICT活用のポイント〉

- ・学習支援ソフトを活用して、共同編集によりグループで考えを整理したりまとめたりすることができる。
- ・振り返りシート（プレゼンテーションソフト）によって学びを振り返ったり積み上げたりすることができる。

#### 1 小単元の目標

- ・我が国の政治の働きについて、政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、見学・調査したり各種の資料で調べたりしてまとめ、国や地方公共団体の政治の取組を捉え、国民生活における政治の働きを考え、表現することを通して、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解できるようにする。
- ・我が国の政治の働きについて、主体的に学習問題を追究するとともに、主権者としての国民の役割について選択・判断しようとする態度を養う。

#### 2 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどについて、見学・調査したり各種の資料で調べたりして、必要な情報を集め、読み取り、国や地方公共団体の政治の取組を理解している。 ②調べたことを文章などにまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民主権の考え方の下、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解している。	①政策の内容や計画から実施までの過程、法令や予算との関わりなどに着目して、問いを見だし、国や地方公共団体の政治の取組について考えを表現している。 ②比較・関連付け、総合などして国民生活における政治の働きを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして、適切に表現している。	①我が国の政治の働きについて、予想や学習計画を立てたり、見直したりして、主体的に学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②よりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

#### 3 小単元について

本小単元では、国が地方公共団体の自立的な取組を制度や財政などの面から支援していることを自分事として捉えられるように、地方創生を教材として設定した。地方創生とは、少子高齢化に伴う人口減少や首都圏への人口集中に歯止めをかけるために、地域活性化を目指した政策である。国

は「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、地方公共団体は地域の実態に応じた総合戦略を作成している。また、2014年度から2019年度までを第1期とし、その成果と課題を検証・改善して、2020年度から第2期を実施している。この地方創生を巡る一連の流れは、社会の課題を解決するための政治の働きの理解や、市民としての社会参画への意識向上につながる教材であるといえる。

4 指導と評価の計画（9時間）

学習問題：  学習課題：

過程	ねらい	○主な学習活動	◆評価規準 ■ICTの活用
つかむ・見通す	<p>[第1・2時]</p> <p>・単元の学習問題を設定し、資料の比較による疑問や既習事項を基に予想を立て学習の見通しを持つことができる。</p>	<p><b>学習問題</b></p> <p>地域の課題を解決し、地域を活性化するために、国や地方公共団体は、どのようなことを行っているのだろうか。</p> <p>○資料から国や地方公共団体の課題とその影響について考え、学習問題をつくる。</p> <p>○学習問題に対する予想や学習計画を考える。</p>	<p>◆思① 観察、ワークシート</p> <p>◆主① プレゼンテーションソフト</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト ■アンケートソフト</p>
調べる	<p>[第3時]</p> <p>・資料から、地方創生を実現するための国や地方公共団体の取組を調べることができる。</p>	<p>国や地方公共団体は、地域活性化のために、どのような取組を行っているのか。</p> <p>○法令などに着目して、国と地方公共団体が進めている地方創生について調べる。</p>	<p>◆知① 観察 プレゼンテーションソフト</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト ■アンケートソフト</p>
	<p>[第4時]</p> <p>・資料から、地方創生の取組はどのように実現しているのかを調べることができる。</p>	<p>市民バスの取組は、どのように実現したのだろうか。</p> <p>○市民バスを例に、住民の願いから政策の内容や計画から実施までの過程について、「市民」「市役所」「市議会」「国」の立場で多角的に調べる。</p>	<p>◆知① 観察、ワークシート</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト ■Web会議ソフト</p>
まとめる・振り返る	<p>[第5時]</p> <p>・政策実現過程について調べてきたことを文でまとめ、国や地方公共団体の政治は、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることが理解できる。</p>	<p>学習したことをふり返し、学習問題をまとめよう。</p> <p>○地方創生の政策実現過程についてふり返し、学習問題をまとめる。</p> <p><b>まとめの例</b></p> <p>地域を活性化するために、市民の願いをもとにして、国と地方公共団体が協力して計画などを作り、議会で話し合って様々な取組を決めている。</p>	<p>◆知② 観察 プレゼンテーションソフト</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト</p>

<p>い か す</p>	<p>[第6時] ・資料から、地方創生の取組の成果と課題について調べ、新たな学習問題をつくることができる。</p>	<p><b>新たな学習問題</b> より良い地方創生を実現するためには、どうしたらいいのか。</p> <p>○地方創生の第1期をふり返り、政策の有効性について考え、新たな学習問題をつくる。</p>	<p>◆主① プレゼンテーションソフト</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト ■アンケートソフト</p>
	<p>[第7時] ・資料から、これからの地方創生や先進的な事例について調べることができる。</p>	<p>国と地方公共団体は、今後どのように地方創生を進めていこうとしているのか。</p> <p>○資料から地方創生の第2期に向けてまとめられた先進的な事例について調べる。</p>	<p>◆知① 観察 ワークシート</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト</p>
	<p>[第8時] (本時) ・新たな地方創生について調べてきたことを北杜市未来デザイン案にまとめ、社会への関わり方を選択 ・判断したりして、適切に表現できる。</p>	<p>新たな学習問題をまとめ、より良い未来の北杜市について考えよう。</p> <p>○これまでの学習と前時に作成した政策提言書を振り返る。</p> <p>○思考ツールを用いてグループで取組の優先順位を話し合い、より良い地方創生について発表する。</p> <p>○各グループで考えた北杜市デザイン案のうち、自分だったらどの政策を行う北杜市に住みたいかを考え、投票する。</p> <p>まとめ ※デザイン案やそれに関する話し合いを基に各自がまとめを記入する。</p>	<p>◆思② 観察 プレゼンテーションソフト</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト ■アンケートソフト</p>
	<p>[第9時] ・民主主義における政治について、自分たちに協力できることは何か考え、学習したことを社会生活に生かそうとしている。</p>	<p>私たちは政治とどのように関わっていけばいいのだろうか。</p> <p>○政策実現過程について振り返る。</p> <p>○前時で選ばれた北杜市デザイン案を実現させるために、市民としてできることは何か調べる。</p> <p>○より良い政治を行っていくための私たちの役割について考える。</p>	<p>◆主② 観察 プレゼンテーションソフト</p> <p>■学習支援ソフト ■プレゼンテーションソフト ■アンケートソフト</p>

※網掛けは、評価したことを記録に残す場面

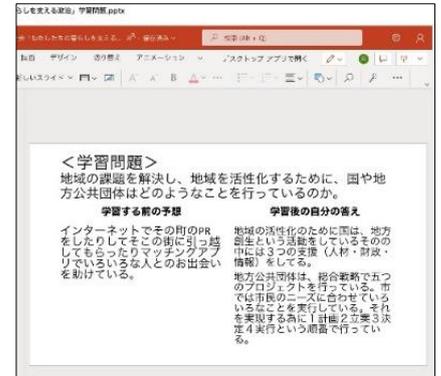
## 5 ICTの効果的な活用について

本実践では、「授業改善」「資質・能力の効果的な育成」「学習時間の効率化」の3つの柱の下单元を構成し、効果的なICTの活用を図るようにした。

### 授業改善 学習支援ソフト・プレゼンテーションソフト

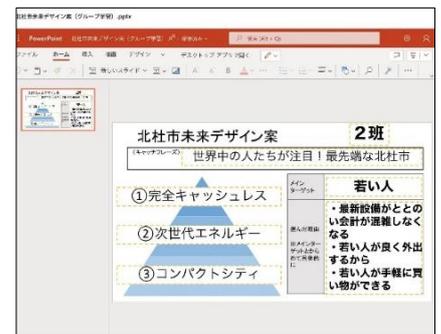
本実践では、学習支援ソフトの「課題」機能を活用して、プレゼンテーションソフトで予め作成しておいた学習シートを児童に配付した。单元を通して学習のまとめや学習感想を書けるようにしたことで、児童の学習の様子を把握し、学習指導に生かすことができた。

また、学習シートにおいて、学習問題に対する学習前後での考えを比較できるようにしたことで、児童自身が学習を通して学習問題に対する自分の考えがどのように変容したのかを把握できるようにした。



### 資質・能力の効果的な育成 学習支援ソフト・プレゼンテーションソフト

第8時では、プレゼンテーションソフトの共同編集機能を活用してグループごとに「北杜市デザイン案」について話し合った。順位付けの根拠を考えることで、児童同士の対話が生まれ、考えを深めることができた。プレゼンテーションソフトと思考ツール（ピラミッドチャート）を組み合わせたことで、話し合いを通して考えたことをその都度思考ツールに反映させることができた。



「北杜市デザイン案」をグループごとに発表するときは、話し合いに用いたプレゼンテーションソフトのシートを大型テレビに映しながら説明を行うようにした。

### 学習時間の効率化 Web会議ソフト・アンケートソフト



第4時では、市民バスの政策に関わっている北杜市役所の職員にゲストティーチャーとして授業に参加していただいた。Web会議ソフトを活用して、市民バスの政策実現の過程について資料(スライド)に基づいて説明いただいた。Web会議ソフトの活用によって、打合せや資料の準備にかかる時間や手間を削減することができた。

第8時では、各グループが考えた北杜市デザイン案を基に、どの政策を進める北杜市に住みたいか、投票を行った。投票ではアンケートソフトを活用した。結果が瞬時に表示されるため、児童は他者の考えや全体の傾向を容易に把握することができた。結果を基に、投票の理由を交流する時間を設けたことで、児童は政治や政策に対する様々な考え方に触れることができ、自分の考えを広げたり深めたりすることができた。

